

「幸せ」ってなんだろう

本単元で育成する資質・能力

人間関係形成能力

- 1 日 時 : 平成29年10月4日(水)
- 2 場 所 : 3年1組 教室
- 3 学年・学級 : 3年1組 36名(男子20名 女子16名)
- 4 題 材 名 : 「幸せ」ってなんだろう?

内容(2) イ自己及び他者の理解と尊重

5 題材について

(1) 題材観

本校で育成したい資質・能力に人間関係形成能力が設定されている。人間関係形成能力の育成に向けては、特別活動を充実させることが効果的であると考え、学級活動で本題材を設定した。本題材は、学習指導要領第3章(2)のイ自己及び他者の理解と尊重の内容を取り上げている。

自分の行動と基本的欲求との関係を考えることで、自分自身への理解を深めるとともに、他者の行動や発言から、その源となっている基本的欲求に思いを馳せることにより、他者を多面的に理解し、よりよい人間関係づくりにつなげていくことがねらいである。

本題材は3時間構成で設定されている。系統的に学級活動に取り組むことで、本校が目指す人間関係形成能力を育成したい。

(2) 生徒観(調査結果からみる課題)

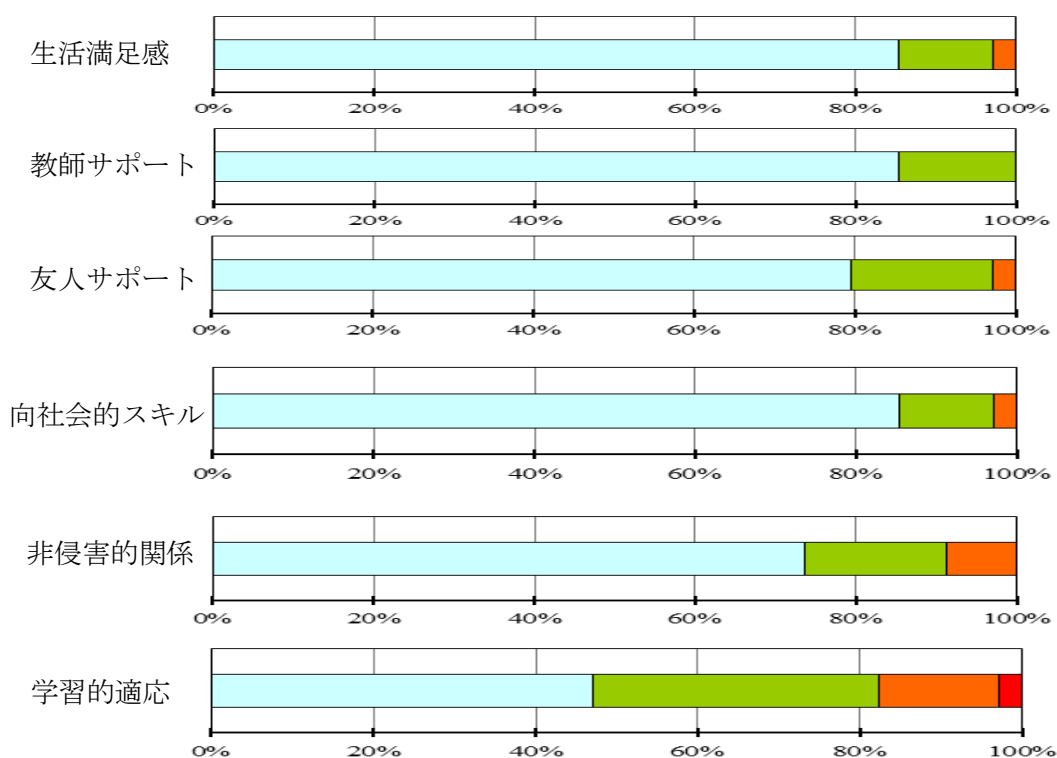
本学級の生徒は、1学期に人間関係形成能力の育成をねらいとした3時間の学級活動に取り組んでいる。学級活動の内容は、「自分を知ろう」「知って得するセルフコントロール」「自分のトリセツ」であった。これらの活動と道徳、総合的な学習の時間を関連させて取り組んだことで、6月のアセスでは成果がでたと考えている。

人間関係形成能力の指標を見取るために、本校ではアセスを活用している。アセスとは「学校環境適応感尺度」のことで、6つの項目を数値化することで、生徒の生活満足感を示すものである。

人間関係形成能力については、「友人サポート」「向社会的スキル」「非侵害的關係」の3つを指標の目安として取り上げている。この3つの項目を生徒の実態として把握し、指導計画を立てた。アセスの6項目が示している内容については、次の通りである。

生活満足感	生活に対して満足や楽しさを感じている程度で、総合的な適応感を示します。
教師サポート	担任の支援があるとか、認められているなど、担任との関係が良好だと感じている程度を示します。
友人サポート	友達からの支援があるとか、認められているなど、友人関係が良好だと感じている程度を示します。
向社会的スキル	友達への援助や友達との関係をつくるスキルを持っていると感じている程度を示します。
非侵害的關係	無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友達関係がないと感じている程度を示します。
学習的適応	学習の方法もわかり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示します。

3年1組が6月に実施したアセスの結果は、次の通りであった。



各項目の肯定的評価（左から2色のグラフ）の結果は、生活満足感94%、教師サポート100%、友人サポート93%、向社会的スキル94%、非侵害的關係90%、学習的適応82%であった。1学期は肯定的評価80%を目標に学級活動に取り組み、人間関係形成能力の育成に向けて、特別活動と道徳、総合的な学習の時間を関連させたカリキュラムマップを作成した。カリキュラムマップについては、別紙を参照していただきたい。

これらの取組の結果、6月のアセスでは成果がでたと考えている。6月以降も学級内では、様々な人間関係に関わる諸問題が発生しているが、その都度、担任の思いや生徒の考えを共有して課題解決に取り組み、現在に至っている。

2学期は10月にアセスを実施する予定である。運動会を終えて、学級の絆は以前よりも高まっていると感じているが、本題材の学級活動を通して、生徒の人間関係形成能力がより高まり、アセスの結果にも表れるように取り組みたい。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

2学期は「つながり合い」を集団づくりの視点として、人間関係形成能力の育成に取り組んでいる。運動会を終え、合唱コンクールにつなげていくこの期間に、学級内の仲間を理解することや自分をより理解する学習を仕組み、学級の絆を深めるとともに、生徒の人間関係形成能力を高めたい。

本題材は、2学期のカリキュラムマップをもとに、3時間の学級活動を計画している。内容は、選択理論を活用した学習である。選択理論とは、協同学習を通して、基本的欲求を満たすことに重きを置く考え方で、ウィリアム・グラッサーが提唱している。

選択理論における「基本的欲求」の知識を理解し、自分の行動と基本的欲求との関係を考えることで、自分自身への理解が深まり、適切な行動がとれることをねらいとした授業である。また、他者の基本的

欲求に配慮しながら自分の基本的欲求を上手に満たしていくことで、よりよい人間関係を築いたり、自分の幸せをつかむ基礎づくりになったりと、この授業を通して、学級内の仲間との良好な人間関係を築くための方法を学ばせたい。

また、選択理論における基本的欲求は、マズローの欲求5段階説とは異なる表現をしており、基本的欲求の方が、生徒の生活により身近でわかりやすい表現であると考え、選択理論の基本的欲求を題材に取り入れている。

学級活動の目標

○学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

【学習指導要領解説特別活動編 学級活動（2）イ】

学級活動（2）の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常生活における自己の課題を見だし、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解している。

6 指導と評価の計画

全3時間（本時は3／3）

次	学習内容（時数） ・ポイントになる生徒の思考	主な学習内容				評価規準	資質・能力の評価
		関	思	知			
1	○5つの基本的欲求を知ろう(1) ・基本的欲求を知るとどんな良いことがあるか。			○		自他の関係をよりよくするために大切な基本的欲求の5つの内容を理解している。	基礎学力 5つの基本的欲求が理解できている。
2	○「基本的欲求」を人間関係づくりに生かそう(1) ・欲求と行動は深くつながっていることに気付く。		○			行動の裏にある基本的欲求は何か考えることで、適切な行動を判断し、実践することができる。	人としての思いやり 他者の欲求にも、思いを馳せることができている。
3	○「幸せ」ってなんだろう？(1) 【本時】 ・互いが幸せな状態とはどのような状態か気づく。	○				互いの基本的欲求に関心をもち、自主的によりよい人間関係を築いて生活しようとしている。	人間関係形成能力 互いの欲求を理解し、よりよい人間関係を築こうとしている。

7 本単元において育成しようとする資質・能力との係わり

本校が、重点的に育成しようとする資質・能力は次の6つである。

知識	①将来に通用する基礎学力
スキル	②課題発見・解決力 ③人間関係形成能力
意欲・態度	④チャレンジ精神 ⑤忍耐力
価値観・倫理観	⑥人としての思いやり

この中でも、本題材では、次の点に重点を置くものとする。

【スキル】

③人間関係形成能力

基本的欲求の知識を活用して自分を知り、他者を知ることでよりよい人間関係を築くことができる。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

他人の欲求充足を邪魔せず、できればその充足を支援して、自分の欲求を充足しようとする、幸せに過ごせることを理解する。

(2) 観点別評価規準

自己の生活をさせるために、互いの基本的欲求に関心を持ち、自主的によりよい人間関係を築こうとしている。

(3) 学習の展開（3時間目／全3時間）

	学習活動	指導上の留意事項■ 努力を要する生徒への 指導の手立て◆	観点の評価○ 資質能力の評価●
導入	本時の目標と活動についての説明 前回の復習 ・5つの基本的欲求の復習	■ワークシートに記入しながら、発問をしていく。 ■前回の授業を思い出させるような支援をする。	○本時のねらいに意欲を持って取り組もうとしているか。 ○5つの基本的欲求に関心を持ち、交流しようとしているか。
展開	他者とかかわった経験を思い出す。 ・そのときの自分の基本的欲求と相手の基本的欲求がどうだったか考える。 自分と相手の基本的欲求の充足度について考える。 ・基本的欲求が満たされていれば○、満たされていない場合は×で表す。	■家族や友達とはどんなかわりがあったか、日常生活の中での様子を思い出させる。 ◆最近の様子を思い出させるように声をかける。 ■自分は○、相手が×のケースでは、このあと、どうなりそうかなど、その場だけでなく、その後のことにも思いが至るように考えさせる。	○具体例をあげようとしているか。 ●自分、他者の状況について考えようとしているか。 ●それぞれのケースを理解し、その後の状況をイメージしようとしているか。

	<p>・ A～Dのケースは、結果的にハッピーな状態かアンハッピーな状態かを考え、線を結ぶ。</p> <p>事例①～⑥をケースにあてはめてみる。</p> <p>・ ワークシートの6つの事例を読み、それぞれがどのケースに当たるかを考え、記号を書いていく。</p> <p>【かかわり合いのピア】</p> <p>事例①～⑥について、ハッピーな状態になるための具体的な手立てを考える。</p> <p>・ 個人思考→集団思考</p> <p>【深め合いのピア】</p> <p>・ 全体交流</p>	<p>■自分と相手の基本的欲求が満たされているかどうかを考えるように促す。</p> <p>◆自分の状況→他人の状況、と順を追って一緒に考える。</p> <p>■Aのケースはハッピーな状態であることを確認する。B～Dのケースについては、どうすればハッピーな状態になるか、ピア班で分担を決め、具体的な手立てを考えるようにする。</p> <p>■グループ共有と全体共有をすることで、授業での気づきや学びを身近な人間関係の中で活かせるようにする。</p>	<p>●それぞれの事例で、基本的欲求の充足度を考えようとしているか。</p> <p>●ハッピーな状態にするための具体的な考え方や行動について考えることができる。</p> <p>●他者の考えを積極的に聞こうとしているか。</p>
まとめ	<p>振り返りシートの記入</p> <p>・ 今日の学びが実際の人間関係にどう活かせるかを考える。</p>	<p>■この授業を通して気づいたことや感じたことを全体で共有する。</p>	<p>○本時の学びを日常生活に活かそうとしているか。</p>

(4) 本時で育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評価基準
人間関係形成能力	<p>A 互いが幸せな状態になるための具体的な考え方や行動について考え、今後の生活で実践しようとしている。</p> <p>B 互いが幸せな状態になるための具体的な考え方や行動について考えている。</p> <p>C 互いが幸せな状態になるための具体的な考え方や行動について考えることができない。</p>